

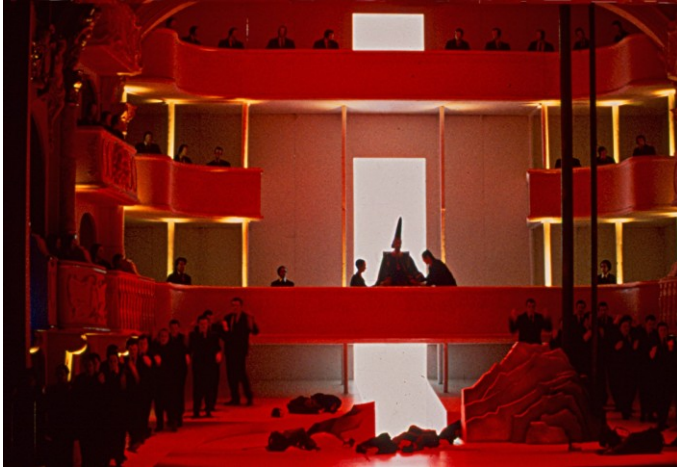
作曲家 久保摩耶子



経歴

神戸生まれの久保摩耶子は幼少からピアノのレッスンを受け、大阪音楽大学ピアノ科を卒業後 1972 年ウィーンに留学する。ウィーン音楽大学では作曲、電子音楽をピアノの傍ら学ぶが、二年のちには作曲に専念するようになる。同時に大学受験資格を取り、ウィーン大学に入学、作曲科と平行して、音楽学と哲学を専攻。作曲はハウベンシュトック - ラマテイーニに師事する。1980 年ウィーン音楽大学を卒業後ヘルムート ラッヒェンマンに師事するため、ハノーバーに移住。4 年間ハノーバーとシュトゥットガルトで学ぶ。1985 年からベルリンに拠点を移してヨーロッパ中心に作曲活動をする。1990 年から 4 年間イタリアに滞在。1995 年以降ベルリンに定住。

1990 年代から舞台作品に集中。独自の自由な発想を展開する。そのころから久保にとっては協和音の 3 度も路面電車のノイズも作曲のマテリアルであった。



1996年オーストリア、グラーツで初演された『羅生門』－グラーツ歌劇場とシュタイアーの秋委嘱作品、1998年再演－はキャリアの最高峰のひとつ

とも言える。「久保は日本文学とヨーロッパ音楽から得たマテリアルを結びつける技法を確実に駆逐している」フランク ヒルベルグ、西ドイツ放送現代音楽担当。

2000年に交響曲第一番をグラーツフィルハーモニー交響楽団で初演。京都市委嘱作品、交響曲第二番『再会』は故郷でのデビュー作品として京都交響楽団で初演。

『羅生門』日本語による日生劇場東京初演（2002）は専門家、観衆の称賛をあげ、日本で作曲家として名を広める土台となる。2005年新国立オペラ劇場委嘱作品『おさん、心中天網島物語より』の初演。テレビ、ラジオ、新聞などで高い評判を得て、日本中の話題となる。

2007年以降はアンサンブル ザイテンブリッケとの共演や、2008年に発足させた ヤコブ－ヤング アジアン 室内オーケストラ ベルリン－の芸術監督を務めるなど幅広く活躍中。第3作目のオペラ『クモの糸』初演(2010)－ベルリンノイケルン区文化局委嘱作品－はベル

リンに於いて青少年参加のジュニアオペラとして成功を収める。2011年はベルリンアジア美術館の協力を得て アジア伝統楽器とヨーロッパ楽器による現代音楽 「フォーカス」シリーズ をプロデュース。現在第4作目のオペラ『イザナギ』を執筆中。

作風

作品の傾向はクロスオーバー的なものから伝統的な交響曲まで幅が広い。例えば、バレエ、オペラ、シアターピース、ラジオドラマ、Jazz やインプロヴィゼーションも混じっている。純音楽的作品の中では社会的テーマや文学的テーマを使用しているのが目立つ。

「久保にとって閉鎖した音楽の世界
というのとは考えられない。彼女は通
俗的な聞き方を避けるために、伝統
的音色をさけている。しかし作品に
よっては、反対に伝統的なマテリア



ルを好んで使用し、それを自分なりに加工したり、又、パロディーとして彼女の音色コンセプトを作り上げている。日本伝統音楽は彼女の作品には見ることはできない。しかし彼女の意識下ではそれを連想させるものがあるに違いない。特に弦楽器を使用した作品にそれが感じ取られる。」ニーケ カイジンガー 現代の作曲家辞典

職歴

ジャパンファウンデーション フェロー (1999)、ラインスベルグ音楽
アカデミー レジデンス (2000)、ハンザ科学アカデミー フェロー
(2002)、ヤドファウンデーション フェロー (2004-07)、ボイヤスコフ
ファウンデーション フェロー(2006)

オーストリア、ドイツ、アメリカなど世界各地の音楽大学、文化研究所
で現代音楽や作曲についてレクチャーをする。

作品は主な音楽祭で取り上げられ、著名な指揮者、演奏家、コンサート
ホールから委嘱を受けている。ウィーン音楽祭、ドナウエッシンゲン現
代音楽祭、ウィーンモデルン、ビエンナーレベルリン、ムジクプロトコ
ル、シュツットガルト放送交響楽団、南西ドイツ放送交響楽団、京都市
交響楽団、クラングフォーラム、東京交響楽団、東京混声合唱団、グラ
ーツ歌劇場、日生劇場、新国立劇場、指揮者：ペーター エトヴェシュ、
シルビアン カンブレラン、ベアト フーラー、シュテファン ラーノ、
井上道義、大勝秀也、演奏者：ヘルベルト ヘンク、ユング ヘーネル、
マルチン ムーメルター、ハーゲンカルテット、守屋剛志、山田岳、森
川栄子 演出家：リン ワイミン、栗国淳、マリーナ ヘルマン、渡辺
和子 美術家：内倉ひとみ、アレキサンダー クラウト

SR, RRB, BR, HR, ORF, NAR, Israel BC, NHK などラジオで作品の放送。

2007/2010年MDR(中央ドイツ放送局)とRBB(ラジオベルリン&ブランデンブルグ)及び(バイエルン放送局)で作品特集番組の放送。日本ではNHKテレビ及びラジオに出演。100曲以上の楽譜はノイエムジク出版社、アリアドネ出版社、ブライトコプフ出版社からそれぞれ出版されている。

主な業績〔抜粋〕



1978—79年オーストリア政府文部省秀才奨学金受賞、1979年フランスブルジュインターナショナル電子音楽コンクール入賞、1980年ウィーン市音楽奨励賞

交響曲『アラクノイデア』、1980/82年モーツアルテウム作曲コンクール審査員、1980年ISCMイスラエル入賞合唱曲『ヨギ』初演、1982年バレエ組曲〔ウィーン音楽祭委嘱作品〕初演、1982年アルバンベルク協会から奨励賞室内オペラ『沈黙』に対して、1984年ISCM グラーツ『BACH—ヴァリエーション』入賞、1984年ニーダーザクセン州作曲奨励賞〔シュライアン滞在〕、1986年『ピアノ協奏曲』〔ドナウエッシンゲン音楽祭委嘱作品〕初演、1986年ベルリン現代音楽協会〔Zeit Musik〕

発足、88年まで同会会長、1987年シンポジウム「20世紀のピアノ作品の意義および影響」を企画、開催、1987—89年ベルリンテンペルホフ音楽学校で作曲セミナー、1989年ミュージックシアター作品ベルリン文化庁作曲奨励賞『モンタール3B』に対して、1990年室内楽〔インヴェンション現代音楽祭委嘱作品〕初演、1988—89年ベルリンウエディングシアターの音楽監督、1991年ピアノ組曲『ベルリン日記』〔ベルリンビエンナーレ音楽祭〕初演、1992年 室内楽 〔ザールブリュッケン 20世紀 音楽祭〕委嘱、1992年オスナブリュック クラングアート祭委嘱舞踏作品『十二単』、1992年 ラジオテープ作品〔SFB, HR 共同委嘱作品〕放送、1994年 シンポジウム「音楽の環境への影響」をローマで企画開催。1994年オーストリア文部省作曲奨励賞『エルンスト ヘルベック詩作品』に対して、1995年クラングフォーラム 10周年記念委嘱作品室内オーケストラ『いまこそは』、1996年グラーツ歌劇場とシュタイアーの秋共同委嘱作品『羅生門』初演〔1996年 再演〕、ムジクプロトコル委嘱作品室内オーケストラ『Yasuko—黒い雨から』、ウィーン モデルンで再演、1998—2000年ウィーン、ベルリン、ケルン、ハンブルグ、レーダヴィーデンプリュックなど各地で作品の個展演奏会、1999年日本国際交流基金のフェロー、四ヶ月京都芸術大学客員研究員、2000年グラーツフィルハーモニー五〇周年記念演奏会にて『交響曲第一番』初演、2000

年京都市委嘱作品『交響曲第二番再会』初演、2000年ベルリン青少年室内アンサンブルの日本公演企画、訪問、丹波の秋、神戸などで演奏。2001年ラインスベルグミュージックアカデミー招待作曲家、2001年イギリス滞在、2002年ハンザ科学コレージュのフェロー、2002年ラインスベルグミュージックアカデミー委嘱舞台作品『ヒペリオンの断章』初演、2002年オペラ『羅生門』日本語改訂版、日本初演。2004年ベルリン文化庁よりパリ、コンポーザーアトリエに6ヶ月招待。2006年ボイヤスコファウンデーションのフェロー。2007年東京混声合唱団委嘱作品『焼け野』東京で初演。2009年1月ベルリンにて YACOB 創立記念音楽会。2010年ベルリン文化庁教育文化ファンド助成プロダクション、オペラ『クモの糸』の初演、2011年「フォーカス」アジア伝統楽器と含む現代音楽シリーズをプロデュース。

